



近藤 大介 議員

大山町保育の特色は

教育長

自然との触れ合いや 外国語活動である



保育所経費の増大も気になる

〔近藤〕いまや本町でも1歳児の8割以上が保育所に入所する状況になり、子どもの健全な成長に保育所の役割はますます大きくなる。本町の保育所の特色は。

〔教育長〕自然との触れ合いを取り入れた保育や外国語活動、読書推進や食育、運動などによる体づくりのほか、地域の方との交流活動に積極的に取り組んでいる。

〔近藤〕保育所経営の基本方針は。

〔教育長〕基本的な生

活習慣や忍耐力、思いやりや協調性を身につけ、ふるさとを愛する心を持って育つよう、家庭や地域と連携した取り組みを進めている。

〔近藤〕経営には、限られた財源でどう望ましい保育を行うか、施設の計画的な建設・修繕、適正な労務管理などの視点が必要ではないか。

〔教育長〕教育への投資が未来への投資と考えている。本町の保育はよそよりもさらに質の高い保育であるべきと考え運営している。

男女共同参画の 現状は

町長

女性の参画は

十分と言えない

〔近藤〕男女格差の国際調査で日本は世界で121位と不名誉な状況にあり、男女共同参画社会の実現は国家的な課題になってきている。

本町の男女共同参画事業の現状と課題は。

〔町長〕年7回行う人権セミナーでは必ず1講座は男女共同参画をテーマにしている。現在のところ町内では総体的には女性の参画拡大は十分とは言えない。町が委嘱している各種審議会への女性委員の登用状況も十分ではなく、引き続き女性の登用について働きかけていきたい。

〔近藤〕2年前に「政治分野における男女共同参画推進法」が制定されている。法で定める必要な施策の認識や、本町での取り組みは。

い。町での取り組みは、十分な周知ができていないので、今後、住民の関心と理解が深まるよう、研修会などを通じて啓発活動を行っていく。

〔町長〕必要な施策は、議会の議論を尊重した



男女平等は持続可能な開発目標(SDGs)のひとつ